

## 令和5年度 学校評価 青垣小学校パワーアッププラン

### 1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	① ふるさと青垣を愛し、自らの生き方を考える子 ② しっかり考え、自ら学び続ける子。 ③ 自他ともに大切にし、最後までやり抜く子
本年度の重点目標	○地域・家庭との連携の推進 ○確かな学力の向上に向けた授業改善 ○児童会活動や異年齢活動、たんばふるさと学を通した生き方教育の推進

### 2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	地域との連携	たんばふるさと学	A	今年度から、コロナ前のように制限なく活動をするようになるになり、地域の様々な場所に実際に行き行って学習をする機会や、たくさんのゲストティーチャーから学ぶ機会も増えた。また、中心教材についても、今年度から3年生は綿の栽培に取り組むこととし、綿の栽培から1年生の綿織り体験、6年生の丹波布の学習へと繋がっていくものとするなど、新たな活動も取り入れた。「地域とふれあう学習を通して、これからは青垣の宝を大切にしていきたいと思う」と回答した児童が96%であることや、保護者の肯定的な評価も82%（昨年度：74%）であることなどから、成果は上がっていると考える。今後も教材の見直しや、保護者・地域を巻き込んだ活動に取り組み、より青垣の魅力が詰まった学習にしていきたい。
	保護者との連携	家庭学習	B	今年度も、春に職員で宿題の内容や担任の評価の観点について話し合い、共通理解するところからスタートすることでできた。昨年度と同じく家庭学習Weekを年間5週に絞り、保護者に家庭学習の支援を求めたところ、ほとんどの保護者から児童の家庭学習に温かい励ましのコメントをいただいた。児童の宿題に関する意識としては、「めあてを持って家庭学習に取り組んでいる。」と回答した児童が、昨年度と同等の90%であったが、保護者は72%（昨年度：76%）であった。来年度は、さらに児童が目的意識を持って取り組める働きかけをしていきたい。
教育課程	指導方法の工夫・改善	授業づくり	A	「自ら挑戦し続ける子」を目指して、一人ひとりを大切に集団づくり、課題解決に向けて見通しを持たせた授業展開、対話を通して主体的で協働的な学びが生まれる学習活動を意識して指導にあたった。また、一人ひとりの進捗やニーズに合わせた学習活動にするため、主体的・協働的に調べてまとめたり、タブレット端末や資料など自分に必要な学習を選択したり自分の学習を調整する力も育もうとしてきた。自分の考えをしっかりと持って発表したり、友だちの発表を聞いたりして解決しようとしている児童は90%を超えており、一定の力がついてきていると考える。 課題としては、保護者の肯定的評価は70%（昨年度：75%）と児童との差が見られたので、授業づくりの取り組みを継続しながら、参観日やオープンスクールの機会をもとに児童の学びの姿を知っていただく他、通信やHPなどで児童の学びの成長や頑張りを伝えていきたい。
	学習習慣の確立	読書活動  メディア	B	今年度も、地域の方々の読み聞かせ活動をはじめ、図書館からの月1回の貸し出し、図書委員会による読書活動推進の取組、読書マイスターへの参加に加え、新たに2学期から読書タイムを15分間（13：15～13：30）設けた。また、学校図書サポーターにも図書室の環境整備を継続してお世話になるなど、様々な取組を通して本にふれる機会が増え、児童の81%（昨年度64%）が、「いろんな内容の本を読んでいる。」と回答するなど、昨年度より17%増加した。また保護者回答では肯定的な評価が35%（昨年度23%）であったことから、今後も引き続き、読書の魅力を伝えられる活動に取り組んでいく必要がある。 メディアコントロールについては、今年度もメディアコントロール週間を学期に一度設定し、家庭でのルールの見直しなどを行った。「時間を決めて、テレビやインターネットを見たり、ゲームをしたりしている。」と回答した児童は80%（昨年度：82%）に対し、「電子メディアにふれる時間について、家庭で決めたルールを守っている。」と回答した保護者は58%（昨年度：76%）であった。児童と保護者間の認識の差が大きいため、今後も引き続き、家庭と学校で連携して取り組んでいきたい。

課題教育	人権教育	いじめゼロ  あったか言葉	A	<p>「友だちを大切にしていますか」の質問に対して児童 95%、保護者 97% が肯定的な評価をされている。いじめに対する理解が深まり、人権意識が家庭を含めた生活環境の中で高まっていることが伺える。いじめゼロ、そして人権が尊重される学校を目指して、日々の生活を振り返り、誰もが幸せに過ごすことができるよう取り組みを進めていきたい。</p> <p>「あったか言葉を使って、よりよい友だち関係を作ろうとしていますか。(挨拶もあったか言葉)」という質問に対して児童 93%、保護者 93% が肯定的な評価となった。例年、高い数値の結果が出ており一定の成果を感じている。特に、保護者は昨年度より約 10% 上がっており、学校と連携して児童の様子を見守っていただいていることが伺える。この意識を行動で表していけるように、引き続き指導や支援を継続し、人権が守られる学校をめざしていきたい。</p>
	特別支援教育	相互理解	A	<p>「一人ひとり違いがあり、自分にも友だちにもよいところがあると思う。」と 98% の児童が回答した。保護者においても「自分のよさも友だちのよさも大事にしながらかつくりをしようとしている。」と 93% の肯定的評価が得られた。児童一人ひとりの個性や特性への理解が広がり、互いを認め合い安心できる居場所作りにつながってきていると考える。</p> <p>今後も、日々の教育活動の支えとして、保護者、教職員、関係機関との連携をしっかりと取り、児童に寄り添っていきたい。個別の支援計画を作成し、児童の特性に合わせた支援や啓発を行うことで、児童の自立と社会参加を見通したキャリア形成を行っていきたい。</p>

### 3 学校関係者評価

- ・学校評価は適切である。
- ・メディアコントロールについては、今以上の保護者との連携が必要であると感じる。また、自分の子が小学生だった時も、親達は“何をどこまで”制限して良いかわかりづらかったので、そのあたりの知識も保護者に教えてほしい。
- ・家庭学習については、メディアコントロールとの関係で、どうしてもゲームの時間が増えているのではと思うので、今後とも保護者と協力して進めてほしい。
- ・地域との連携では、「丹波布」に焦点を当て、複数学年に渡って取り組まれたことが、アンケート結果にも繋がっていると思う。青垣の宝を大切に思う気持ちが、ふるさと「青垣」を大切にすることにも繋がっていて、保護者も子どもを通じて青垣の魅力を再発見される機会にもなるのではないかと。
- ・学校だけでなく、家庭においても「あったか言葉」を大切にされていることが感じられ、温かい気持ちになった。園小中と一緒に大きくなる仲間として、よりよい友達関係を築いてほしい。
- ・コロナ禍の制限がなくなり、今後ますます地域との連携が広がっていくと思うので、子どもたちが今後成長していくために大切なふるさと愛（土台）を育むために多様な関わりができることを無理のない範囲で取り組んでほしい。
- ・あったか言葉は、今は何も感じなくても、将来必ず表れると思うので、続けてほしい。また、あったか言葉（挨拶）について、児童、保護者アンケートでは数値も高くなっているが、地域からは、あまり良い評価は聞かないので、どのような場面においても挨拶ができる青小生でいてほしい。
- ・コロナの扱いが変わることで、徐々に以前の生活に戻っていく間にも、先生方はとてもたくさんの配慮をして頂き、それは今後も（インフルエンザもあるので）続くと思いますが、“子ども達の為に！”という志でとてもよく対応されていると思う。
- ・本に触れる機会は、青小はとてもある方だと思うので、このまま続けていってほしい。

### 4 次年度の改善の方向性

本年度も、青垣地域小中学校教育目標に「ふるさと青垣を愛し、自ら学びたくましく生きる児童生徒の育成」を掲げ、「あったか言葉」と「挑戦」を大切にしながら、青垣小中学校運営協議会と連携し取組を進めてきた。

次年度も、青垣地域の強みである、園小中高の連携をさらに図ること、またアフターコロナ下における地域や保護者との連携の在り方、学校教育への参画方法等を模索しながら、「あったか言葉」と「挑戦」を大切に、目ざす子ども像である「ふるさと青垣を愛し、自らの生き方を考える子」「しっかり考え、自ら学び続ける子」「自他ともに大切にし、最後までやり抜く子」の育成をめざしていきたい。

令和 6年 3月 8日  
 学校名 丹波市立青垣小学校  
 校長名 長井 博史